

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第19週 (5/4-5/10) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		19週	18週	17週	16週
小児科		18	17	18	18
眼科		5	4	5	5
インフルエンザ*		27	23	27	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	5/4-5/10	4/27-5/3	4/20-4/26	4/13-4/19	4/27-5/3
			19週	18週	17週	16週	18週
小児科	RSウイルス感染症		1	2	3	4	6
	咽頭結膜熱		4	5	1	4	92
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	43	57	54	431
	感染性胃腸炎		46	133	135	112	618
	水痘	○	13	7	10	4	36
	手足口病		3	2	3	7	26
	伝染性紅斑		10	29	23	22	189
	突発性発しん		9	10	13	15	56
	百日咳		0	1	0	0	7
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	2
	流行性耳下腺炎		2	10	2	3	75
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		16	20	64	68	289
眼科	急性出血性結膜炎		0	1	0	0	1
	流行性角結膜炎	○	3	1	3	0	26
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	0	1	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	3

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
クロイツフェルト・ヤコブ病	女性	70歳代	脳波検査等	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・クロイツフェルト・ヤコブ病1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(13)、梅毒1件(6)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第19週のコメント

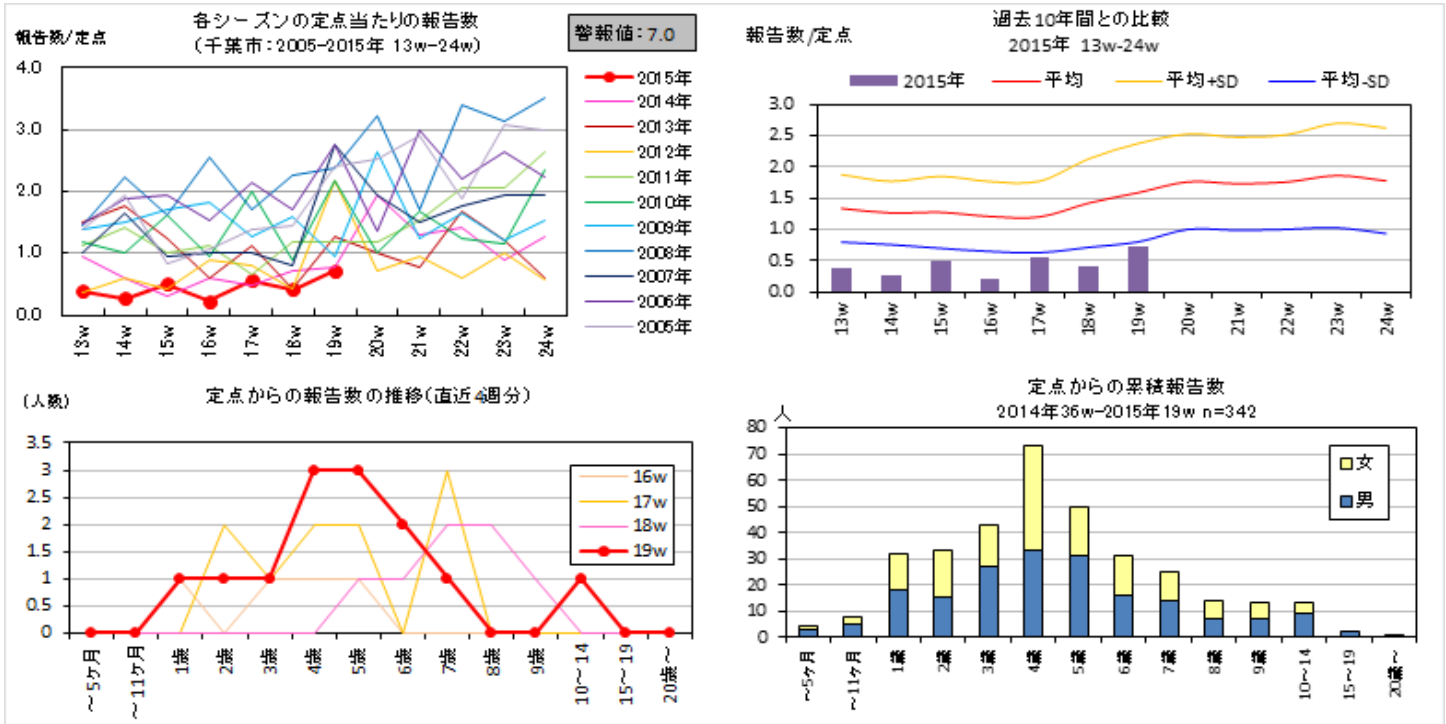
<水痘>前週より増加し0.72となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。

<流行性角結膜炎>前週より増加し0.60となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

＜水痘＞

全国レベルの2015年第18週現在は、過去8年間の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、大分県、沖縄県、宮崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第19週は、前週より増加し0.72となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況では、緑区(1.25/定点)で最多で、同区の6歳で最も多く発生が報告されました。今シーズンの2014年第36週から2015年第19週現在の累積報告数(n=342)によると、性別では男性が54.0%(188名)、女性が45.0%(154名)で、年齢階級別では4歳(21.3%:73名)、5歳(14.6%:50名)、3歳(12.6%:43名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2015年第18週現在は、過去8年間の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、群馬県、宮崎県、大分県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第19週は、前週より増加し0.60となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況では、美浜区(2.0/定点)で最多で、同区の40歳代で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第19週現在の累積報告数(n=47)によると、性別では男性が36.2%(17名)、女性が63.8%(30名)で、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に27.7%:13名)、20歳代(17.0%:8名)の順に多くなっています。

